

2008 年度事業報告（案）

1. 事業報告全般：

会員機関の組織や体制の見直しの機運が続いているなかで、さらに昨今の景気低迷が加わり状況の厳しさが増している。このような状況下で、魅力ある協会とすることを大きな検討課題として、年間の諸事業を通して地道な事業を推進してきた。また、公益法人制度改革法案が公布されたことに伴い、調査・研究・情報収集を行った。

(1) 活動の活発化：会員への支援拡大

協会の主要事業として、会誌刊行事業、普及研修事業としての講習会、シンポジウム、情報検索能力試験は、充実した事業を推進することができた。

- ・研修事業として、研修委員会および西日本委員会の活発な企画・推進により、会員の注目するセミナー、見学会を実施でき、集客数・収益が大幅に向上した。また、両委員会は企画力強化のために合同委員会を2月に開催し、相互の情報交換を図った。両委員会の委員構成も充実し、次年度では相乗効果が大いに期待できるところである。
- ・会誌刊行として、前年に引き続き、会誌編集委員会の特集テーマ企画および安定した定期発行が達成された。また、特集テーマの他に、連載「オンライン情報検索」を4月号から掲載した。また、協会活動としての委員会レポートや情報検索能力試験などを紹介できた。
- ・情報検索能力試験については、今年度も通常の公開試験会場とは別に8会場の個別試験会場で実施することができた。情報検索能力試験の普及が年々拡大できているところである。
- ・出版事業としては、既刊の「情報検索の知識と技術」および「情報検索の基礎知識」が、情報検索能力試験事業に大きく寄与できた。しかしながら、新規出版物の企画・発行などを検討する常設の出版委員会の体制が充実できず次年度の課題となった。

(2) 新規会員増対策

協会活動の基盤となる会員数の拡大は当協会の重要課題である。日常の活動を通して会員の勧誘活動を行うのは当然であるが、会員のニーズ把握や、さらに、新しい会員を獲得するために、現状の活動に上乘せして、新たな活動を行うべく検討を開始したが、抜本的な施策作成までには至らなかった。短期的な施策として、維持会員向け無料セミナーの開催、セミナー参加費の割引など各会員への特典制度を設け次年度から実施することとした。

(3) 収益性および正味財産の改善

当協会における事業活動は、「研修事業」「出版事業」「会誌刊行事業」「情報検索能力試験」「シンポジウム事業」など、協会の人的、知的資源を生かした事業として進められている。今年度はこれらの事業で収益の改善が図られ、正味財産の大幅な改善が図られた。

(4) シンポジウムの共同開催

今年度も、独立行政法人科学技術振興機構（JST）と共同で、第5回情報プロフェッショナルシンポジウムを開催した。400名を超える参加を仰ぎ成功裡に開催することができた。

特に今回、情報関連企業のプロダクト・レビューを初めて開催し好評を得た。

(5) その他

- ・研究会としての OUG（4分科会）、SIG（5部会）については、活発な分科会、部会が開催された。情報プロフェッショナルシンポジウムでの研究成果の発表やポスター展示などを行った。
- ・評議員会に「パテントドクメンテーションへの具体的取組み」が諮問された。次年度から新規事業として具体的な取り組みを検討することとした。

2. 2008 年度役員および担当 (○は 2008 年度選出)

理事 (東日本地区)

- 小河邦雄 OUG
- 川村剛 事業推進委員会 (正)、運営委員
- 清水美都子 運営委員、特許新事業 (副)、事業推進委員
- 莊司雅之 会誌編集委員会
- 真銅解子 副会長、運営委員、事業推進委員、表彰者選考委員会委員長
- 立花 肇 会長、運営委員会委員長、事業推進委員、試験実施委員会委員長
- 田村紀光 専務理事、事務局長、運営委員、事業推進委員
- 土谷 久 運営委員、研修委員会 (副)、事業推進委員会 (副)
- 手塚久男 試験実施委員会 (副)、広報委員会
- 棚橋佳子 著作権問題委員会
- 時実象一 出版委員会 (正)
- 林 和弘 研修委員会 (正)、研修委員会委員長
- 原田智子 試験実施委員会 (正)、運営委員
- 平井邦造 副会長、運営委員、事業推進委員、複写権問題対策委員会
- 松谷貴己 SIG、事業推進委員、特許新事業 (正)
- 山下 浩 出版委員会 (副)

理事 (西日本地区)

- 稲葉洋子 西日本委員会
- 岡 紀子 西日本委員会
- 高橋和子 西日本委員会
- 村山博一 西日本委員会

監事

- 松下 茂
- 三沢一成

評議員 (東日本地区)

- 小山内正明 長田孝治 ○北島由紀子 ○木村美実子 桐山 勉 ○小陳左和子
- 鈴木博道 長塚 隆 ○長縄友子 藤井信栄 ○藤村和男 山崎久道
- 吉井隆明

評議員 (西日本地区)

- 入江正美 河塚幸子 ○斉藤仁夫 田窪直規 田中邦英 ○中江貴彦
- 増田知子 三村智子

3. 会員異動

種別	2007 年度末	入会	退会	増減	2008 年度末
維持会員	67	1	4	-3	64
特別会員	122	3	4	-1	121
普通会員	1,350	111	154	-43	1,307
学生会員	38	9	11	-2	36
合計	1,577	124	173	-49	1,528

4. 会議開催状況

(1) 通常総会 -----1 回

第 51 回通常総会および協会賞表彰式 2008 年 5 月 21 日 (水)

議題：

- ① 2007 年度事業報告および決算報告
- ② 2008 年度事業計画案および予算案
- ③ 2008 年度～2009 年度役員選挙
- ④ 第 33 回情報科学技術協会賞表彰
 - ・情報業務功労賞 鈴木博道氏、阪上晃庸氏
 - ・教育・訓練功労賞 田中邦英氏
 - ・優秀機関賞 日本製薬情報協議会
 - ・協会事業功労賞 SIG 分類/シソーラス/Indexing 部会
- ⑤ 永年普通会員 渡辺弘見氏、西森克巳氏

(2) 理事会 ----- 7 回

(3) 評議員会 ----- 1 回 (2009 年 2 月 26 日 (木))

(4) 委員会

- | | |
|----------------------|--------------------------------|
| 運営委員会 ----- 7 回 | シンポジウム実行委員会 ---- 4 回 |
| 表彰者選考委員会 ---- 1 回 | 認定試験実施委員会 ----- 7 回 |
| 事業推進委員会 ----- 4 回 | 著作権問題委員会 ---- メーリングリストにより実施 |
| 会誌編集委員会 ----- 12 回 | 複写権問題対策委員会 ----- 2 回 |
| 会誌編集小委員会 ----- 2 回 | 研修委員会 - ----- 4 回 |
| 標準化委員会 ----- 1 回 | |
| 西日本委員会 ----- 5 回 | |
| 研修事業情報交換会 ----- 1 回 | (2009 年 2 月 20 日 (金) ラフォーレ琵琶湖) |
| (研修委員会と西日本委員会の合同委員会) | |

5 刊行事業

5. 1 会誌刊行事業

2008 年度も安定した発刊 (当月 1 日) を達成することができた。会誌は、特集を中心とした編集方針をとっているが、情報担当者の世界で話題になっているトピックを幅広く取り上げることができた。特集内容は若干図書館分野に偏りがちな傾向はあるが、編集委員会内でもこの点は留意し、他誌では扱い難いトピックを取り上げるなど工夫を凝らしている。その一方で、定期的に掲載している情報検索能力試験報告に加え、協会関連の研究会やセミナーの報告などを数多く掲載するよう工夫し、協会活動の周知にも力を入れた。

また新しい連載企画として「オンライン情報検索：先人の足跡をたどる」を 2008 年 4 月号から開始した。これは日本における情報検索システムや情報検索サービスの歴史を記録としてとどめようとする試みである。

投稿記事は 2008 年 4 月から 2009 年 3 月の間に 3 本掲載した。投稿原稿採否の審議を契機に「原稿執筆の手引き」(投稿規程) および原稿用紙テンプレートを改訂することになり、7 月からこの改定版の運用を開始した。この投稿規程は、協会ホームページに公開するとともに、2009 年から毎年 1 月号に繰り返し掲載することになった。

本誌は国立情報学研究所が運営する論文情報ナビゲータ (CiNii) を通じて本文を公開しているが、2008 年 4 月より、この公開範囲を会誌発行の翌月から 5 ヶ月までの 4 ヶ月分についても公開することとした (これまでは発行の翌月から 5 ヶ月の間は非公開)。ただし当該期間中は有料 (協会員は無料) としている。

会誌編集委員会では、これまで手薄であった西日本の情報を広く収集するため、新たに「会誌編集協力員 (以下、協力員)」という制度を設け、西日本委員会の協力を得て 2 名をこれに任命した。協力員は電子メールベースで委員会に参加するとともに、年 2 回の企画会議に出席していただくことになっている。

【特集】

2008 年

4 月号 データベースと索引方針

- 5月号 ソフトウェア活用のススメ
- 6月号 利用者調査
- 7月号 レファレンス再考
- 8月号 Web アーカイビングの現状と課題
- 9月号 目録の現状と未来
- 10月号 図書館の経営経済分析と資金調達
- 11月号 図書館員のための文書管理
- 12月号 ファインダビリティ向上

2009年

- 1月号 e-Research と学術出版
- 2月号 図書館員に求められる資質とキャリア形成
- 3月号 (第5回)情報プロフェッショナルシンポジウム

【連載】 オンライン情報検索：先人の足跡をたどる (4月開始)

【コラム】 Infosta Forum (継続連載中)

5. 2 一般刊行事業

今年度の一般刊行事業については、委員会体制の整備ができず、これまでに刊行した出版物の増刷での販売を行ってきた。情報検索能力試験対策のテキストとして、『情報検索の知識と技術』および『情報検索の基礎知識』は2008年度は改定はなく、増し刷りでの刊行を行った。

6. 普及研修事業

6. 1 研修会・セミナー

今年も大阪、東京の両地区で情報検索能力試験向けセミナー（情報検索応用能力試験2級および情報検索基礎能力試験）を行い、受験対策および受験者獲得に貢献した。また、一般セミナーとしては著作権、Wikipedia、パテントマップに関するものを行い、特に著作権の法改正に伴うセミナーに多くの参加者が集まり、収益増にも貢献した。定番化した新年会セミナーではINFOPROの成功者から会員を元気づけていただく講演を実施した。見学会としては、各国の規格を集めた日本規格協会のライブラリの見学を実施した。さらに、西日本委員会と研修委員会で今年も交流活動を行い、研修事業情報交換会として引き続き情報交換と親睦を深め、企画に役立てることとした。

(2009年2月20日(金)ラフォーレ琵琶湖)

また、外部より個別セミナーの要請があり、「サーチャー講座 21」、「情報検索基礎能力対策セミナー」を実施した。

研修一覧

名 称	期 日	会 場	参加者数
著作権の基礎から学べる実践セミナー	5月27日	東京	105
外国法セミナー	7月9日	大阪	24
見学会：日本規格協会ライブラリー	6月27日	東京	20
実践 Wikipedia インフォプロが学ぶ上手なつきあい方	7月30日	東京	38
情報検索基礎能力試験対策セミナー	8月30日	大阪	18
情報検索基礎能力試験対策セミナー	8月30日	東京	49
サーチャー講座 21	9月6-7日	東京	59
サーチャー講座 21	9月20-21日	大阪	39
図書館員のための情報収集・検索能力向上のための研修 (サーチャー講座 21 の内容に同じ)	10月4-5日	倉吉	44
情報検索基礎能力試験対策セミナー：広島市立中央図	10月4日	広島	20

書館			
情報検索基礎能力試験対策セミナー：九州女子大学	10月26日	北九州	50
新春セミナー：元気なインフォプロを目指して	2009年 1月16日	東京	41
見学会 乃村工藝社	1月21日	大阪	12
自分でできる解析手法セミナー	2月6日	大阪	51

6. 2 シンポジウム

INFOPRO2008 は、(独) 科学技術振興機構との共催により、2008年11月13日～11月14日の2日間、日本科学未来館において、420名余の参加を得て、盛大に開催されました。

今回、初めて情報関連企業10社・機関の協力を得て、プロダクト・レビューを開催。各社のプロダクトのレビューおよび展示コーナーでの商品展示を開催し、好評であった。

- ・特別講演は荒井寿光氏（知財評論家（東京中小企業投資育成（株））で、『どうする日本の知財戦略－知識社会化の中で日本が生き残るために－』の演題で行なわれた。
- ・トーク&トークとして『どうするインフォプロ！－人材育成および利用者教育－』を開催した。4名の話題提供、フロアー参加者とのトーク&トークとして盛況であった。

会期：2008年11月13日～14日

会場：日本科学未来館（お台場）

- ・一般発表：23件
- ・プロダクト・レビュー
10社によるプレゼンテーションと展示コーナーでの商品説明など
- ・INFOSTA 研究会（OUG および SIG）のポスター紹介を行った。

6. 3 情報検索能力試験

2008年11月23日に、7箇所の公開試験会場と8箇所の個別実施会場で実施した。一級の二次試験は、2009年2月15日に実施した。

個別実施会場数も年々増傾向にあり、公開試験会場へ出かけることなく、地域の大学などで開催でき、好評であった。

個別実施会場：九州女子大学、別府大学、藤女子大学（札幌）、大阪工業大学、鳥取短期大学、宮城学院女子大学、広島市立図書館、尚絅大学（熊本）

受験申込者数は1,244名（前年1,356名）であった。

試験後は、「合格を祝う会」を東京地区（3月6日）と大阪地区（3月7日）で開催した。

(1) 2008年度「情報検索応用能力試験」実施結果

（カッコ内は2007年度実績）

	受験者数	合格者数	合格率	実施日	試験地
2級	279名 (297名)	129名 (133名)	46.2% (44.8%)	2008年11月23日	東京(1)、東京(2) 名古屋、大阪 福岡、上田 つくば
1級	23名 (14名)	6名 (5名)	26.1% (35.7%)	2008年11月23日 (一次)	東京
				2009年2月15日 (二次)	

(2) 2008年度「情報検索基礎能力試験」 実施結果
(カッコ内は2007年度実績)

	受験者数	合格者数	合格率	実施日	試験地
基礎	805名 (903名)	669名 (750名)	83.1% (83.1%)	2008年11月23日	東京(1)、東京(2)、名古屋、大阪、福岡、上田、つくば、 個別試験会場： 九州女子大、別府大、大阪工大、藤女子大、鳥取短期大学、宮城学院女子大学、広島市立図書館、尚絅大学(熊本)

7. 調査研究事業

7.1 受託調査、分類付与

- ・受託調査はなかった。
- ・分類付与 : UDC 分類付与を1社実施

7.2 標準化活動

(1) 標準化委員会

10月に委員会を開催し、JIS規格5年目見直しを検討し、2件につき継続することとし、日本規格協会に回答した。

- ・JIS X-0307 国際十進分類表 (UDC)
一部の機関が使用しているため JIS は継続とした。
- ・JIS X-0701 情報及びドキュメンテーション用語
特段の改正および廃止の必要がないため、JIS は継続とした。

(2) 科学技術情報流通技術基準 (SIST) 委員会に委員を派遣した。

7.3 著作権活動

(1) 著作権問題委員会

著作権についての普及活動の一環として研修委員会に協力して5月27日(化学会館)にて「著作権の基礎から学べる実践セミナー」を開催し、105人の参加を得た。

(2) 本年度は、協会からの著作権問題についての諮問事項はなかった。

(3) 複写権問題対策委員会

2008年度も行政の動きや学術著作物の複写利用に関する著作権処理機関と利用者の交渉などの動きに機敏に対応してきた。都合6回の委員会を開催し討議や情報交換を繰り返し、(社)日本複写権センター(JRRC)、学術著作権協会(JAACC)などの管理事業団体や日本経済団体連合会(経団連)との協議・意見交換なども実施した。3月4日には文化庁著作権課長等を招いた「学術文献複写の権利処理に関する最近の話題」と題する「第8回複写権問題検討会」も開催した。この検討会は、INFOSTA 会員と経団連会員と限定したクローズなもので、経団連との連携で初めて開催したものである。

文化庁著作権課の「法制問題小委員会平成20年度・中間まとめ」へのパブリックコメントを通じて薬事法や障害者福祉目的での権利制限規定を設けることなどを主張した。知財制度専門調査会

「デジタル・ネット時代における知財制度の在り方について（報告書）」に対しても権利制限の一般規定（日本版フェアユース規定）の導入などを継続して意見表明してきた。また昨年について「知的財産推進計画 2008」の見直しに関する意見募集に対しても意見を表明した。

8. その他の委員会、事業活動

8. 1 広報活動

協会活動の普及、拡大に向けて取り組んでおり、会誌での研究部会の紹介（OUG, SIG）、メールマガジンの発行などを行った。

さらには、ホームページ改善に向けて作業を開始し、入会および会誌、書籍注文につき、改善を図った。引き続き次年度へ継続していきたい。

8. 2 西日本委員会

西日本委員会は 12 名の委員で構成し、主に西日本地区に拠点を置く会員に向けた講習会、見学会、会員交流会などを企画立案し、情報活動の支援サービスを行ってきた。

(1) 委員会の開催（年 6 回、JST 西日本支所 研修・会議室）

普及研修事業や見学会などの企画、実施計画、実施報告・反省を中心に、円滑な事業運営をすべく、活発な意見交換を行った。また研修委員会との合同委員会を開催（2月20日、於：滋賀県守山市）し、セミナーの企画、開催、報告等について意見交換を行った。

(2) 普及研修事業

(2)-1 講習会 4 件

① 外国法セミナー

- ・開催日、場所：2008年7月9日（水）、大阪大学中之島センター
- ・講師：指宿 信氏（立命館大学法科大学院教授）
- ・参加者：24名

② サーチャー講座 2 1：情報検索応用能力試験 2 級受験対策セミナー（2 日間コース）

- ・開催日、場所：
東京会場：2008年9月6日（土）、7日（日）、東京八重洲ホール
大阪会場：2008年9月20日（土）、21日（日）、大阪産業創造館
- ・講師：岡紀子氏（株式会社住化技術情報センター）、田中邦英氏（株式会社インダ）
三村智子氏（D I C株式会社）、池田剛透氏（多摩大学）
- ・参加者：98名（東京 59名、大阪 39名）

③ 情報検索基礎能力試験受験対策セミナー（1 日コース）

- ・開催日、場所：2008年8月30日（土）、大阪産業創造館
- ・講師：河塚幸子氏（近畿大学）
- ・参加者：18名

④ 自分でできる解析手法セミナー 特許情報の解析例

- ・開催日、場所：2009年2月6日（金）、大阪大学中之島センター
- ・講師：安藤俊幸氏（花王株式会社）
- ・参加者：51名

(2)-2 見学会 1 件

- ・場所：株式会社乃村工藝社 大阪事業所 情報資料室
- ・開催日：2008年1月21日（水）
- ・参加者：12名

(3) 会員交流活動

(3)-1 じょいんと懇話会

西日本地区の情報検索能力試験合格者有志の会「ISフォーラム」と当協会、双方の会員および非会員で情報活動に関心の高い人との交流会を実施した。

- ・開催日、場所：2008年12月5日（金）、大阪大学中之島センター
- ・話題提供者：小松陽一郎氏（小松法律特許事務所）
- ・テーマ：著作物とは何か
- ・参加者：36名

(3)-2 2008年度情報検索応用能力・基礎能力試験「合格を祝う会」

- ・開催日、場所：2009年3月7日（土）、大阪科学技術センター
- ・祝賀先輩サーチャーのお話：剣持和江氏（株式会社クラレ）
- ・参加者：2級5名；基礎2名（INFOSTAから8名）

(3)-3 「情報活動研究会（INFOMATES）」の活動支援

情報活動に興味を抱く人材が相互に研鑽する研究会の活動を支援。ディスカッションを中心とした研究会を2回開催。

テーマは「図書館や情報分野で働く人のキャリアアップ」、「情報担当者の育成」。

8. 3 表彰者選考委員会

第33回「情報科学技術協会賞」各賞の受賞候補選考を行い、次のように推薦した。

- ・情報業務功労賞 鈴木博道氏、阪上晃庸氏
- ・教育・訓練功労賞 田中邦英氏
- ・協会事業功労賞 INFOSTA 専門部会 分類/シソーラス/Indexing 部会殿
- ・優秀機関賞 日本製薬情報協議会殿
- ・永年普通会员 西森克巳殿、渡辺弘見殿

8. 4 国際委員会準備室の活動

当協会がUDC協会およびFIDなどの国際機関との連携を断った後、他の国際的な関連機関との交流を模索してきたが、主だった活動には至らなかった。全体的な国際交流の構想を検討する必要がある。

9 部会関連事業

9. 1 日本オンライン情報検索ユーザー会（OUG）

各分科会とも年間を通して主査を中心とした活動を行なった。各分科会の活動の詳細は、以下の分科会報告を参照されたい。また、INFOPRO2008においてOUGのPR活動の一環としてポスター展示を実施した。

(1) 化学分科会（主査：鈴木理加氏） 開催6回

① 勉強会・見学会

- ・2008年5月：ベンダー訪問（独）科学技術振興機構
- ・2008年7月：ベンダー訪問（株）ジー・サーチ

- ・2008年9月：DB説明会 Thieme と RSC の Project Prospect (ビューロー ホソヤ)
- ・2008年12月：ベンダー訪問 (社) 化学情報協会
- ・2009年1月：勉強会 情報検索応用能力試験問題を解く
- ・2009年3月：勉強会 情報検索応用能力試験問題を解く

② 情報検索応用能力試験 試験問題 2 級前半の回答例をホームページに公開。

(2) ライフサイエンス分科会 (主査：石井恵子氏)：11 回開催 (8 月：休会、7 月：臨時開催)

(2)-1 講演会：9 回

- ・「明日の新薬 Web の紹介」、「Proux Science Integrity の紹介」(4 月)
- ・慶應義塾大学医学部信濃町メディアセンター訪問「国内の診療ガイドラインと『Minds』などについて」(5 月)
- ・「MeSH」「NLM」「米国医学図書館総会」などの紹介(6 月)
- ・STN ライフサイエンス系ファイルの強化(7 月)
- ・NII 学術コンテンツサービスの紹介(9 月)
- ・SLA 参加報告、T-Pharma と IDdb3 の紹介(11 月)
- ・エルゼビア社 Reaxys と Pharmapendium の紹介(12 月)
- ・iyakuSearch の各種データベースの紹介(2 月)
- ・薬事規制データベース IDRAC の特徴(3 月)

(2)-2 検索演習：2 回

① 検索演習(10 月)

- ・中国における口蹄疫の予防に関する文献。(口蹄疫：foot and mouth disease)
- ・カルボシステインを妊婦に投与した際の安全性(催奇形性、胎児毒性)について網羅的に調査する
- ・フランスのジェネリックシェア急騰の理由について(国内)
- ・G-CSF 製剤の作用機序について述べた文献

② 検索演習(1 月)

- ・腎機能障害者へのアセトアミノフェン投与(国内・海外)
- ・感染性心内膜炎が大動脈弁より僧帽弁に多い理由(国内・海外)
- ・ヘリコバクターピロリと胃がんの関連について除菌療法が有効・無効とされている文献(国内のみ)
- ・抗癌剤「5FU」と「CDDP」で投与順序により効果を比較した文献(国内・海外)

(3) インターネット／ビジネス分科会 (主査：渡邊 晃氏)

開催：計 12 回 (毎月 1 回 於：協会会議室) 登録者：27 名 (平成 21 年 3 月時点)

(3)-1 研究テーマ I (5~9 月)：「ビジネス・プランニング」のプロセスについての研修

- ・事例に「メタノールを燃料とする燃料電池(DMFC)」を取り上げ、その新規用途市場の探索と評価について研究した。

(成果) 燃料電池関係の特許情報分析、市場規模などの関連情報源、関連情報のデータベ

ス化法 (1)、新規用途候補例の評価法、インフォプロ 2008 での発表

(参照資料) 科学技術と経済の会. 技術戦略マップを活用した新ビジネス創出プランニングの
ディスカッション・マニュアル, 経済産業省平成 18 年度技術戦略マップローリング事
業. 2007-03

(3)-2 研究テーマ II (10~3 月): 新技術の新用途探索法の研修

- ・「光触媒の新用途」を事例に、特許・ウェブ情報の中から新用途を探し出すことを研究した。
(成果) 関連技術情報・関連市場情報と情報源、特許情報中の目的情報所在分類、関連情報
のデータベース化法 (2)

(3)-3 紹介・交換した有用情報

- ・情報源: (データベース(DB)) Fuel Cell Markets Portal, Fuel Cells 2000, NEDO/技術戦
略マップ 2008, Free patents online など

(統計類ほかリンク集)

気象庁/気象統計情報, JST/Science Links Japan (サイエンス・リンクス・ジャパン), 中国特許 無
料特許検索 DB リンク集 など

(辞書類)

Yahoo! 百科事典, 特許版事典検索システム Cyclone (サイクロン), マーケティング用
語集, オンライン辞書・翻訳サイト (Internet Watch 解説リンク集), もんじろう (言
葉・方言変換), 【英-英】 Thinkmap/Visual Thesaurus, Online Dictionary at
Datasegment.com, Yahoo! Babel Fish, FAA Pilot Dictionary など

(新聞・ニュース)

燃料電池ワールド, 燃料電池新聞オンライン など

(サービス・技術ほか)

JST/e-seeds.jp (技術シーズ統合検索システム), JST/新技術説明会 など

- ・エンジン情報 (機能、技術動向ほか): メタサーチ LemmeFind, 分類エンジン iBoogie, MARS
FLAG エンジン, Google トレンド, Yahoo! 検索キーワードのサイト順位情報, 検索順
位.com, 百度 (Baidu) の特許情報検索機能, ナショナル・ジオグラフィックの Map Machine
など。
- ・役立ち情報 (ソフト・機能、ウェブ検索法ほか): 新規用途のヒント探索手順, 無料アクセ
ス解析サービス, IPDL を使う特許検索項目の探し方, エクセル簡単入力法, 読み方の分
からない漢字入力 (記事), 国際情報オリンピック (IOI) ほか。

(4) 特許分科会 (主査: 鈴木利之氏) 開催 12 回 原則として毎月第 2 金曜日に開催。

定例分科会

4 月: 調査に関する Q & A

5 月: 請求項作成演習

6 月: 講演会 演題: 究極の新規性調査 (講師: 鈴木利之氏)

7 月: 講演会 演題: データから見たデータベース (講師: 須藤健次郎氏)

8 月: 特許分類の付与演習

9 月: 公知例調査演習

10 月: 合宿 (エーザイ佐島保養所)

講演会: 演題: 特許庁における先行技術調査の一方法 (講師: 特許庁担当者)

演習: 拒絶理由通知作成演習

11月：特許解析(オープンパネルディスカッション)

12月：講演会 演題：サーチャーの海外情報収集と発信

(講師：南田泰子氏、中村栄氏、徳野肇氏、桐山勉氏、松谷貴己氏)

2009年

1月：中国特許の検索演習

2月：インタビューの実践

3月：講演会 演題：特許検索ポータルサイトの紹介 (講師：特許庁担当者)

9. 2 SIG

専門部会 (Special Interest Group, 略称：SIG) は、特定の分野または専門技術に関心をもつ会員が自由に参加し研鑽を積む場として1984年10月に発足した。現在は、技術ジャーナル部会、パテントドクメンテーション部会、分類/シソーラス/Indexing部会、Webサイト研究部会、ターミノロジー部会の5グループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画し活動している。2008年度の各グループの活動は以下の通りである。

(1) 技術ジャーナル部会[会員企業：13社(コアパーソン：持ち回り)]

奇数月の最終金曜日に、合計6回の会議を開催した(幹事は持ち回り)。

会議は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。2008年度の議題は以下のとおりである。

- ① 編集業務の効率化
- ② 発行承認から発行までの効率化
- ③ デザインの効果について
- ④ 著者情報の記載について
- ⑤ SISTについて
- ⑥ 技報編集業務におけるIT化(講演)
- ⑦ 各社におけるIT化の現状の紹介
- ⑧ JUST SYSTEM社文章校正支援ツール(講演)
- ⑨ 技報の活用施策について

(2) パテントドクメンテーション部会 会員 8名(コアパーソン：桐山 勉氏) (毎月開催)

- ① 「R&D 効率アップの特許情報活用書誌ブライアン系-俯瞰可視化系-マップ系の連携活用研究」をINFOPRO2008シンポジウムにて発表した。(7年間連続して部会活動の成果を報告)
- ② 協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページにて、活動状況を継続公開した。また、INFOPRP2008シンポジウムでパネル展示に参加した。
- ③ OUG特許分科会とSIGパテントドクメンテーション部会との交流会；
12月の有志情報交換会にて「East meets West 2008、欧州PDGの紹介」を講演。
- ④ Yahooのe-Groupにパテントドクメンテーション部会だけの非公開電子部会を継続開催し、毎月の部会活動に対する活性化補完の手段とした。
- ⑤ World Patent Information専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。
輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。

- ⑥ 特別研修会を横浜にて 10 月上旬に開催し、横浜レトロ建築散策と三溪園の見学を行った。横浜の歴史を学ぶと同時に、横浜開港記念館にて INFOPRO2008 発表原稿を検討した。「R&D 効率アップの特許情報活用書誌データベース系ー俯瞰可視化系ーマップ系の連携活用研究ー」を実施。
- ⑦ 外部知的財産団体への協力；メンバー代表の派遣
特許検索競技大会 2008 の実行委員会（1 名派遣、2007 年に引き続き継続派遣）
- ⑧ メンバー間のトピックス情報交換
IPI-ConfEX2008、米国 PIUG2008、EPOPIC2008、EMW2008 などの関連情報。
俯瞰可視化検索システム「創知社の X LUS の試行研究」を実施。
- ⑨ 欧州特許庁との交流会
特許情報フェアの開催に合わせて、EPO 部長の Dr.Vacek 氏と意見交換
ナノテック・フェアの開催に合わせて、EPO の Ms.Irene Schellner 氏と意見交換

(3) 分類／シソーラス／Indexing 部会 会員：18 名（コアパーソン：山崎久道氏）（毎月開催）

当部会は、インデクシング、分類、シソーラス、情報検索の諸問題について、理論および実務の側面から研究している。部会員は、研究者、情報検索実務家、図書館員、データベース製作者、検索等のシステムの関係者などからなる。研究者も、そのほとんどが、かつて、情報管理・情報検索の実務に従事した経験を有している。

ほぼ毎月に 1 度の割で例会を開いて、凝縮された討論を通じて研究を進めている。2008 年度は、前年度に引き続き、F. W. Lancaster (著) “Indexing & Abstracting in Theory & Practice 第 3 版” (University of Illinois, Graduate School of Library and Information Science) の会員による輪読を終了した。

インデクシングの問題は、地味ではあるが、情報専門家のアイデンティティを主張する上で、必須のテーマであると認識しているので、輪読が終了した後、会員の今後の勉強用に同書の「まとめ」を作成した。

その後、情報検索・インデクシング・情報化社会・言語学などに関する最近の一般文献を、分担して読み、部会でブックレビューを行った。そこでの議論は、議事録を作成して会員全員で共有している。さらに、2008 年に当部会は創立 20 周年を迎えたので、それを記念して、「20 年のあゆみ」（会員配布）作成した。

(4) Web サイト研究部会 会員：10 名（コアパーソン 橋田昌明氏）（毎月開催）

① データベースについて

- ・実務システムとして安定稼働している「図書検索システム」に、単行本データに加えて雑誌データを搭載するべく雑誌データベースのパイロット版を作成した。これらの経験をまとめて INFOPRO2008 において「WAMP によるイントラ用資料室ホームページ搭載データベースの運用と作成」と題する発表を行った。
- ・文献複写処理向け雑誌データベースの検討をはじめた。

② Linux について

引き続き、Windows 上の仮想環境の研究や、LAMP + phpMyAdmin 環境の構築などを行った。

③ その他

- ・日常的な場面で抱えた諸問題(自宅での無線ネットワーク環境の構築、PCトラブル、WindowsとLinuxのデュアルブート環境の構築等々)について、相互に意見を出し合って解決することで、PCの基本およびOSの起動プロセスなどの理解・知識の向上を図った。
- ・Webサイトに関わる諸問題についても、工夫したことや困っていることを紹介しあうことで、問題解決と知識・理解の向上を図った
- ・様々な局面でテキスト処理を取り扱うことで、Perlなどテキスト処理に関しての理解を深めた。
- ・図書室業務へのXoopsなどの利用可能性を検討した。
- ・インフォプロ2008で紹介展示を行った。

(5) ターミノロジー部会 会員：15名(コアパーソン：太田泰弘氏) (隔月開催)

① 設立の趣旨：情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立した。原則として隔月開催とし、2008年度は7回実施した。

② 2008年度実施内容：

第24回(4月18日)

- ・標準化に関する用語の標準化：「ISO/IEC Guide 2」のJIS化にあたっての問題点(講師：太田泰弘)
- ・「専門用語と翻訳」という課題への取り組み(講師：長田孝治、山本昭)

第25回(6月6日)

- ・英文国際規格の仏訳における問題点：「ISO/CD 10241-2」の審議から気づいたこと(講師：仲本秀四郎)
- ・辞典作成に関する国際規格「ISO/WD 11763」への対処(講師：長田孝治)

第26回(7月11日)

- ・複合専門用語の構造解析(講師：小山照夫)

第27回(9月26日)

- ・「JIS X 0701:2005 情報及びドキュメンテーション」の問題点(講師：仲本秀四郎)

第28回(11月21日)

- ・ISO/TC 37の新規プロジェクト(講師：山本昭)

第29回(2009年1月30日)

- ・言語政策・用語政策(講師：仲本秀四郎)

第30回(3月27日)

- ・中国における翻訳(講師：永田小絵)

10. 関連団体との交流

(1) 会員として加入

- ・(財)機械振興協会 賛助会員(継続)
- ・(独)科学技術振興機構 賛助会員(継続)

- ・東京商工会議所 賛助会員 (継続)
- (2) 他団体より後援を受けたもの
専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本情報処理開発協会、日本図書館協会
- (3) 他団体に共催、後援、協賛したもの () 内は主催団体名
 - ・特許検索競技大会 2008 (関西特許情報センター振興会)
 - ・TP&D フォーラム 2008 (TP&D フォーラム実行委員会)
 - ・関西地区 2008 年度研究会 (アートドキュメンテーション学会)
 - ・第 7 回研究大会 (情報メディア学会)
 - ・第 20 回専門用語シンポジウム (情報知識学会)
 - ・第 124 回記録管理学会例会 (記録管理学会)
 - ・第 13 回情報知識学フォーラム (情報知識学会)
 - ・情報活動研究会 など